



育成を目指す資質・能力： 他者との対話を通して考えを再構築する力

○生徒が主体的に学べる仕掛けがあったか。

◎導入からスピーチ活動につながる仕掛けがあり、全員が参加できるような手だてとなっていた。

◎「スピーチを行って他者から質問をもらう」という活動そのものが主体的で、育成を目指す資質能力への学びになっていた。

◎ペアや小グループでの活動が非常に多く、全体ではなかなか発言できないけれど近くの仲間になら言える、という生徒への参加の手だてとなっていた。

●進度の遅い生徒への手だてをどのように行うか。形成的評価段階で様々な方法を行ってはいるが、全員が主体的とまではいかなかった。

○課題を追求する段階で、教師のファシリテートはどうだったか。

◎前時までの指導の手厚さが表れていた。特に重要概念「つながり」については、多くの生徒が自身のスピーチ内容はもちろん、他者へのアドバイスの端々で「つながり」を問うような発言があった。

●「再構築をする」という観点から言えば、自分のスピーチ原稿の不十分な部分を可視化させるなどして意識させた方がスムーズだったのではないか。

◎●表現が分からないときなどにすぐに教師を呼んで聞くことができる。また、難しい表現や分かりにくい言い回しなどは板書を使って全体共有しているのも良かった。今後は、徐々に教師の手を離れて自分たちで解決していけるようなステップアップが必要か。

○交流場面において、生徒が多様な意見を認めることができるような工夫があったか。

◎1分スピーチの時間、1分アドバイスの時間、とやることを明確に区切ることで、他者のスピーチをよく聞いて、アドバイスをするという活動が成り立っていた。

◎●A、B、Cの三人で共有するときに、AがBにCの考えや表現を参考にするように働きかけている場面があった。協働の良さを垣間見た場面だった。しかし、他のグループではなかなかそこまでの交流ができておらず、難しさもあった。模範となる交流をしているグループの様子について全体共有することができていたら良かったかもしれない。

○生徒が自分の言葉で学びを振り返ることができていたか。

◎スキルを中心に据えて振り返りを行ったのが良かった。授業内容（活動）から離れて（俯瞰的にみて）どんなスキルが発揮できたか、高まったか、を考えることで、他の場面でも意識的にスキルを使えるようになっていくのではないか。

◎わかりづらい表現や使いたい表現について記述する欄もあり、教科で学ばせたいこと（専門性）についても担保していたのが良かった。

○その他 （生徒の姿からの気づき等）

・自分の考えや経験をもとに表現する課題を出したときに、全く考えられない生徒がいる。ヒントやアドバイスを与えても難しい。全教科で見守り、出来た時には肯定的評価を意識的に行い、自尊感情の向上を図る必要がある。

・チーム会の意義を再確認した。学際的な視点から、他教科で扱ってきた内容と育成してきた資質・能力の共有が教師にも生徒にも有益に働く。「単元の指導前」のところに記入すると良いか？